

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立浦和東高等学校)

目指す学校像	確かな人間力と教養を育み、生徒一人ひとりが自己の探究と実現ができる学校
--------	-------------------------------------

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	1 学力の向上をめざし、授業改善と主体的な学習習慣の確立を進める。 2 自律心と規範意識を高める生徒指導と学習及び部活動の環境整備を進める。 3 自己探究により進路意識を高め、進路希望の実現率を高める指導を進める。 4 保護者・地域連携と情報発信を充実させ、開かれた学校づくりを推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	
学校関係者	4名
生徒	3名
事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学校関係者評価	
年 度 目 標 (年度目標関係部分は修正しないでください。)					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		実施日令和2年2月6日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	① 社会人基礎力として、基礎学力の向上を図り、学力を確かなものとするために、新しい学習指導要領の方向性を踏まえた授業改善に取り組む。 ② 学習と部活動を両立させる。	① 新しい学習指導要領の方向性を踏まえた授業改善に取り組む。 ② 学習習慣を確保する。	① 主体的・対話的な深い学びを実現する態度を育成する観点から授業改善を進める。 ・ 年次研修対象者、未来学び研究者をはじめ多くの教員による積極的な授業公開の実施。 ・ 生徒への授業評価アンケートの実施。 ・ 校外で開催される各種研修会への参加。また、そこの学びを還元した授業実践と研修受講報告会の実施。 ・ 授業規律についての共通認識を持ち、徹底を図る。 ② 時間の使い方や集中度について指導する。 ・ 学習室、図書館の積極的な活用 ・ Classiなども利用した自主学習の奨励	① 主体的・対話的な展開の授業を取り入れられたか。 ・ 『この授業見てみてシート』が出されたか。 ・ 生徒による授業評価アンケートの結果から授業改善の成果が見られたか。 ・ 校外での学びを自らの授業改善に生かされたか。 ② 授業以外の学習時間が増えたか。 ・ 時間の使い方、学習方法に工夫が見られたか。	① 当初の目標を概ね達成した。 ・ 未来学び授業公開 6,10 月実施。他各教科で主体的・対話的授業実施。 ・ 『この授業見てみてシート』も出されアンケートから授業改善を確認。 ・ 他県先進校公開授業、研究大会、民間シボジウム等へ参加し研究する教員が増加。授業改善に活かした。 ② 当初の目標をほぼ達成した。 ・ 授業以外の学習が習慣化(毎日1時間以上)。→そう思う101人(10.7%)。どちらかというと思う169人(17.8%)。計約28.5%。	B	① 教科としての取り組み始めたアクティブラーニングの流れを学校全体にもっと広げていく。 ② 昨年に比べて若干学習の習慣化がみられるが、約28.5%とまだまだ少数。 ・ 生徒が授業以外で自主学習するようにさらに仕掛ける。	・ 1-2-5の教育課程は、将来を見据えたコース選択ができるのが魅力的であり、中学生が本校を選択するポイントにもなっている。5系の呼称を工夫し、イメージアップを図りたい。 ・ 授業姿勢と自主学習時間に落差がある。これを埋めることで基礎学力向上につなげて欲しい。
2	① 自己管理が甘く、時間を守れない生徒が少なからず存在しており、遅刻や登校時の交通事故の増加にもつながっている。自律心を伸ばして基本的な生活習慣を確立させることを課題とし、遅刻数、交通事故発生件数を減らすよう努める。 ② 環境整備を進め生徒の活動意欲を喚起するとともに安全・安心な学校づくりに努める。	① 交通ルールの周知徹底に取り組む。 自己管理の徹底を呼びかけ、遅刻者数を減らす。 ② 美化・健康・防災・危機管理に対する意識向上を図る。	① 生徒主体の交通安全指導や講話を実施する。 ・ 遅刻、交通事故防止の観点から、10分前登校を促す。 ・ 掲示物による注意喚起をする。 ・ 定期的な立哨指導を実施する。 ② 環境委員会、保健委員会で美化・健康についての本校の課題を分析させ、その方策について検討させる。 ・ 校内美化及び健康面については掲示物や配布物を利用して全校生徒の意識を高める。 ・ 防災訓練においては昨年度導入したシェイクアウト訓練のような生徒の主体的取り組みを検討していく。 ・ 生徒対象及び教職員対象の救命講習会を継続する。	① 生徒主体の取組ができたか。 ・ 交通事故件数がどう推移したか。 ・ 遅刻者数がどう推移したか。 ② 委員会の運営に生徒が主体的に関わられたか。 ・ 校内美化・健康面についての生徒の意識向上は図られたか。 ・ 防災意識において迅速、安全に避難できたか。 ・ 危機管理体制に向けて前進できたか。	① 当初の目標を概ね達成した。 ・ 教員講話と生徒主導交通安全講習を実施。交通事故13件は前年度比で5件減、遅刻者数は100件以上減少。 ② 当初の目標を概ね達成した。 ・ 委員会の学年ごとの話し合いは生徒主体で円滑に進行。 ・ 防災訓練でのシェイクアウト訓練も定着しつつある。 ・ 教職員対象の応急手当研修会は救急搬送の方法の実演も取り入れて実施。参加者19名。	B	① 引き続き交通ルール順守の徹底を呼びかける。交通事故危険地点での立哨指導の回数を増やす。 ② 委員会から健康面・校内美化に関する課題を全校生徒に呼びかける機会を増やす。 ・ 次年度から分掌内の人数配分が2名減となるので、防災訓練当日の教職員の役割分担の再編成が必要。	・ あいさつができる生徒が増えてきている。精神的にも生徒が増え、生徒間トラブルの要因も減っている。トラブルのやり取りで誤解を生んでいるケースもある。もっと大人げなく話を聞かせたい。 ・ 生徒会など主体的な活動を充実させることが課題である。 ・ 部活動規範意識醸成に役立っている。 ・ 交通事故、遅刻の減少は指導の成果。 ・ 防災訓練必要である。今後もしっかりと指導して欲しい。
3	① 計画的・系統的な進路指導を実践し、生徒一人ひとりの自己実現に向けて、個々の進路希望を踏まえ、適切に指導を行う。 ② 大学入試改革に向け、新制度への円滑な対応を進める。	① 生徒一人ひとりの進路実現に向けて多方面から指導に当たる。 ② 「学力の3要素」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」に基づいた進路指導を行う。	① キャリア教育の充実を目標に進路指導を実践する。 ・ 適切な時期に、効果的な進路資料を提供する。 ・ スタディサポートや実力判定・実力診断テストを全校で実施し、生徒の進路意欲を高める。 ・ 個々の進路に応じて、進路補講や面接・小論文指導等を実施する。 ② SD(探究)の時間、classiを活用し、生徒一人ひとりが自己を振り返り、主体的に自らの将来について考え、目標を見据えたポートフォリオの作成を促す。 ・ GTECを1,2学年全員に受験させ、大学入試へのモチベーションを上げるとともに、英語4技能のスキルアップを図る。	① 進路行事、進路結果満足度は90%を超えたか。 ・ 実力判定・実力診断テストの結果を進路指導に上手く活かされたか。 ・ 上位私立大学合格者を輩出、4年制大学合格者6割程度、民間就職率100%を実現したか。 ② 年間を通してclassiを有効に活用し、全生徒が積極的にポートフォリオの作成に取り組めたか。	① 当初の目標をほぼ達成した。 ・ 進路結果満足度92%。 ・ スタディサポート、実力診断テストの課題配信と教科成績が生徒のモチベーションを向上させ、全体の学習到達度が1段階アップした。 ・ 上位大学合格複数名、4年制大学合格者169名、民間就職率は100%であった。 ② 当初の目標をほぼ達成した。 ・ classiを活用し、行事・考査等の振り返りや、ポートフォリオ作成に向けた前向きな取組ができた。	A	① 入試改革に対応していく。 ・ 正確な情報の収集に努めながら進路行事を精査する。 ・ スタディサポートや実力診断テスト等で進路意識向上を継続する。 ② 新入試に向け、学力の3要素を身に付けさせる。 ・ SD(探究)の時間を有効活用する。 ・ 多様化する入試制度について生徒、保護者への情報提供を徹底し、理解を深めていく。	・ 進路結果満足度92%に指導の成果が出ている。指導の継続をお願いしたい。 ・ 学年や学級として、進路実現に向けて取り組む雰囲気を作りあげ、効果を上げて欲しい。 ・ ボランティアや交流活動が進路意識醸成に役立っていると思う。
4	HPなどを活用し、本校の教育活動を県民に広く発信する。今後も、本校に対する保護者、地域、並びに中学生からの信頼を高め、理解を深めるために、積極的に広報活動をおこない、教育活動をPRしていく。	開かれた学校づくりを推進する。	・ 年5回の学校説明会や年2回の中学校・塾訪問の実施、また、校外で開催される高校説明会への参加。 ・ 学校説明会の工夫・改善を図る。 ・ 学校案内の工夫と改善を進め、HPで情報の発信を頻繁に行う。 ・ これまで進めてきた異校種連携を継続して進める。 ・ 保護者、地域住民の学校行事(公開行事に限る)への参加を促す。 ・ 埼玉スタジアムとの連携を強化する。	・ 学校説明会などを通して本校への理解が深まり、進学意欲が高まったか。 ・ 学校説明会の工夫・改善が図られたか。 ・ HPの更新は頻繁に実施できたか。 ・ 異校種連携は進んだか。 ・ 保護者などの学校行事への参加者数が増加したか。 ・ 埼玉スタジアム連携が進化したか。	当初の目標をほぼ達成した。 ・ 学校説明会などを通し、本校への理解・興味・関心を深めることができた。 ・ HPの更新は頻繁に実施することができた。 ・ 既存連携に加え、県推進の学校地域WINWINプロジェクトによる連携を進めることができた。	A	・ 中学校訪問がなくなる関係で、それに替わる生徒募集のアイデアを考えていきたい。 ・ HPの更新は各部活動が活動状況を知らせる場として、より頻繁に行っていきたい。 ・ スタジアム連携の継続、発展と他連携の模索。	・ 学校選択の観点から、制服の占める率は高い。検討する価値はある。 ・ 埼玉スタジアムは当地域における有用な場である。今後も教育の場として有効活用して欲しい。 ・ 各種行事により浦和東高校への地域理解が深まっている。